



この新聞は公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団の支援を得て鹿屋体育大学の学生及び関係者の活躍・動向等をお知らせしています。

本日ここに、鹿屋体育大学体育学部196名、大学院修士課程18名、博士課程8名、合計222名の新入生を迎え、令和6年度入学式を挙げていきます。これは、教職員ならびに在学生にとりまして、大きな喜びとするところであります。また、本日まで、ご子息、ご息女を温かく見守り、ご支援を惜しまれなかった、保護者の方々ははじめ、関係各位の皆様方に心からお祝い申し上げます。

皆さんは、本日より、鹿屋体育大学の学生として、スポーツや武道に関する学びをスタートするわけでは



鹿屋体育大学長 金久 博昭

令和6年度 鹿屋体育大学入学式 学長告辞

が、特に学部生の皆さんに、先日のオリエンテーションで触れた「文武不岐（ぶんとふき）」という言葉（ぶんぶき）という言葉を改めて贈りたいと思います。

今日、スポーツや武道への関わり方は、「する」「みる」「きく」の3つの言葉によって代表されますが、体育学部新入生の皆さんの心の中は、学生アスリートとして、練習や稽古、すなわち「スポーツや武道を実践する」ということが、大きなウェイトを占めていると思います。しかし、本学の学生として求められるのは「する」というだけではなく、

「みる」「きく」ということを合わせ持つ姿勢です。単に「する」というだけでは、スポーツや武道の本質に迫ることはできません。つまり、スポーツや武道を実践する行為そのものは、体を動かすことが基本であり、それは身体的および生理的現象として捉えることができます。そして、実際の動きを通して生じるパフォーマンスの良しあしは、やる気・不安・緊張といった心の有りようにも左右される心理的現象として解釈することができます。また、スポーツや武道は、人間独自の営みとしての長い歴史を持ち、文化的、社会的側面も持ち合わせています。

すなわち、スポーツや武道は、多様な側面をもつ、人間の独自の極めて高度な営みであり、それらの本質を理解するためには、実践を通しての学びだけではなく、複数の学問領域を、横断的、複眼的視野を持って学ぶ必要があります。一方で、実践を伴わない理論のみの学びでは、運動技術の新たな修得やパフォーマンスの向上は望めないことも明らかです。つまり、「文」に相当する理論的学びと「武」に相当する練習や稽古を通しての実践は、分けて考えることができない、いわゆる不岐の関係にあるといえるわけです。

本学での学びを開始するにあたっては、まずは皆さん自身の意識の中に常に文と武の両者を共存させ、それらを互いに生かすという姿勢を持っていたきたい。そしてその姿勢を日々実践する能力と理解する能力を相乗的に高めることがで

き、本学が育成をめざす「活気ある（Active）」「独創的な（Creative）」、精鋭たち（Elite）：A.C.E. KANOYAにふさわしい資質をもった人材としての成長を遂げるということが可能になるといえます。

皆さんは、スポーツや武道の実践と学びを通して本学で叶えたい夢を胸に秘め、今この場に臨んでいることと思います。皆さんが夢の実現に向け歩む道は、決して平坦なものではなく、日々努力する過程において、様々な身体的、心理的な課題に直面し、試行錯誤を繰り返しながら、課題に立ち向かうことになるでしょう。しかし、そのような課題と向き合う日々は、皆さんにとって、課題が生じる背景を論理的に推理する能力、課題を解決する道筋を探索する能力、そして実践を通して課題解決の手段を具体化する能力を磨く機会になるはずです。ぜひ、皆さん一人一人が自身を律する規範として文武不岐を掲げ、本学での新たな挑戦をスタートしてください。

ここ大隅の地は、皆さんがこれからの大学生活を送るうえで、基盤となる場所です。鹿屋市をはじめ大隅の皆様方は、学生諸君を温かく迎え、本学の教育および研究をご支援してください。どうか自然豊かな大隅の地で、鹿屋市を中心とする地域の皆様とのふれあいを通して、充実した学生生活を過ごしてください。

最後になりましたが、本日ここに、ご来賓の方々並びに保護者の皆様方のご列席を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。新入生の皆さんへの告辞とします。

羽ばたけ
大空へ

新聞財団

編集：鹿屋体育大学
発行：公益財団法人鹿屋体育大学
体育・スポーツ振興教育財団
編集責任者：鹿屋体育大学長
発行人（発行責任者）：財団理事長 風呂井 敬
財団事務局：〒891-2393 鹿屋市白水町1番地内 0994-46-4827(直)

宣誓の言葉

令和6年度新入生代表 中道 綺華

体育学部スポーツ総合課程
(宮崎工業高等学校・宮崎)



宣誓

私たち、体育学部スポーツ総合課程128名、武道課程49名、第3年次編入学スポーツ総合課程19名、大学院体育学研究科修士課程15名、博士後期課程6名、スポーツ国際開発学共同専攻修士課程3名、大学体育スポーツ高度化共同専攻3年制博士課程2名、合計222名は、入学の許可を受け、ここに鹿屋体育大学の学生となることができました。春の陽気を心地よく感じられる今日、日本で唯一の国立体育大学である、この鹿屋体育大学に入学できましたことは、最高の喜びであり、米蕨であります。私はカヌー部に入学し、先輩方や同期の仲間と共に、カヌーの技術はもちろん、人間性の部分でも、大いに成長できることが楽しみであります。そして、鹿屋体育大学の学生として、誇りを持ち、世界の第一線で戦える選手になれるよう、日々精進します。

私たち入学生一同は、誇り高き鹿屋体育大学の一員として、知識や技術をさらに磨きながら、功績を残していくことを目標にし、大学生活という新たな経験をするにあたり、時に壁にぶつかり、時に挫折することもあるかもしれませんが、仲間たちと手を取り合い協力して、本学創設の理念の通り、品位を保ち、スポーツ、武道、体育及び健康づくりにおける中核的なリーダー、すなわちNIFS NEXT30で掲げているA.C.E. Kanoya（エースカのや）に学生一人ひとりがなれるよう、学業及び競技力の向上に励むことを、ここに誓います。

在学生歓迎の言葉

鹿屋体育大学第41代体育会会長 月館 龍之介

武道課程2年 (福島東高等学校・福島)



桜が芽吹き始め春の訪れを感じる季節になりました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。在学生を代表し、心からお祝い申し上げます。

皆さんは今、これから始まる大学での新生活に向けて、期待と不安でいっぱいだと思います。皆さんを見ると、私自身が入学した頃のことを思い出します。大学の一員として、知識や技術をさらに磨きながら、功績を残していくことを目標にし、大学生活という新たな経験をするにあたり、時に壁にぶつかり、時に挫折することもあるかもしれませんが、仲間たちと手を取り合い協力して、本学創設の理念の通り、品位を保ち、スポーツ、武道、体育及び健康づくりにおける中核的なリーダー、すなわちNIFS NEXT30で掲げているA.C.E. Kanoya（エースカのや）に学生一人ひとりがなれるよう、学業及び競技力の向上に励むことを、ここに誓います。

皆さんは大学生活にどのようなイメージをお持ちですか。大学での生活は、授業を受けて知識を深めるだけでなく、自分自身の成長や将来の目標を見つける素晴らしい機会でもあります。新しいことに挑戦する気持ち、失敗や困難に打ち勝つ強さを育んでください。また、大学生活を豊かにするために、これまでよりも自ら積極的に行動することが大切です。自分の興味や特技、新しい世界や価値観を見つけ、自身の成長につなげていってください。

最後になりますが、大学では初めてのことがばかりで困る場面や戸惑うことがたくさんあると思います。そんな時には、いつでも先輩や教職員に遠慮せず頼ってください。全力でサポートすることを誓います。

皆さんの活躍をお祈りしつつ、在学生一同お祝いを申し上げます。歓迎の言葉とさせていただきます。

スポーツを愛する人たちへ

(公財)ミズノスポーツ振興財団は「日本国のスポーツの振興に必要な事業を行い、さらなる国民の心身の健全な発達に資する」を目的とし、その活動は50年以上にわたります。

具体的には、スポーツの普及振興やスポーツの国際交流の発展に対する助成、スポーツに関する科学的・学術的・医学的研究に対する助成、優秀なスポーツ指導者やスポーツライターを顕彰する事業などを行っており、その助成累計額は約86億円に及びます。





「冠スポーツ奨学金証書授与式」で冠スポーツ奨学金証書を風呂井理事長から渡される学生3名。写真は久保田さんと田邊さん



「冠スポーツ奨学金贈呈式」で風呂井理事長から奨学金を手渡される津村さん

公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団では多額のご寄附をいただいた企業、団体等の皆様の名称を冠した奨学金として、国内外の競技大会で優秀な成績を収めた学生や競技団体に對して給付しています。

3月22日に、令和5年度に国内外の競技大会で優秀な成績を収めた学生、団体に對して「冠スポーツ奨学金贈呈式」が行われ、受給者個人39名、4団体を代表して体操競技部の津村涼太さん（スポーツ総合課程3年、暁高等学校・三重）に風呂井敬理理事長から奨学金が手渡されました。

また、4月5日の令和6年度鹿屋体育大学入学式終了後には「冠スポーツ奨学金証書授与式」が行われ、令和6年度の冠スポーツ奨学金給付者の企業14社の代表者から風呂井理事長へ奨学金目録が授与された後、全日本又は国際試合などで活躍している将来有望な学生3名に對し、冠スポーツ奨学金証書の授与が行われました。

冠スポーツ奨学金給付企業の皆様の多大なるご協力に、この場を借りて心からの感謝と御礼を申し上げます。

令和5年度冠スポーツ奨学金 令和6年度冠スポーツ奨学金 対象学生が決定

令和5年度 冠スポーツ奨学金（個人）

所属団体	大会名	氏名	種目	成績
陸上競技部	2023日本学生陸上競技個人選手権大会	池田 大晟	男子砲丸投	1位
		水野 皓太	男子三段跳	1位
体操競技部	第77回全日本体操種目別選手権大会	金田 希一	男子つり輪	1位
	第62回NHK杯	津村 涼太	男子あん馬	1位
	第77回全日本学生体操競技選手権大会	田邊 友唯	男子ゆか	3位
水泳部	第99回日本学生選手権水泳競技大会	榎田 大己	男子100m平泳ぎ	2位
剣道部	第71回全日本学生剣道選手権大会	木村 恵都	男子	1位
漕艇部	第50回全日本大学ローイング選手権大会	黒木 秀里	女子シングルスカル	3位
自転車競技部	第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	伊澤 将也	男子マディソン	1位
		梅澤 幹太		
		津留 峻	男子チームパーシュート	2位
		並江 優作		
		中西 美央	女子500mタイムトライアル	1位
		岩元 美佳	女子チームスプリント	1位
	第92回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	年見 穂風	女子チームスプリント	1位
		川本 莉子	女子チームスプリント	1位
		池口 黎於	男子カナディアンシングル200m	1位
		原田 雅功	男子カナディアンペア200m	2位
カヌー部	第59回全日本学生カヌースプリント選手権大会	北崎 健介	男子カナディアン4×500mリレー	3位
		中園 太陽		
		阿部 弘豊	男子カヤックフォア1000m	2位
		行田 朋晃		
		上田 桃華	女子カヤックフォア500m	3位
		高岡 明音		
	第13回全日本学生カヌー長距離選手権大会	岩永 紘明	男子カナディアンペア15000m	1位
		高野 真緒	女子カヤックペア 9000m	1位
		土橋 愛花		
	令和5年度SUBARU日本カヌースプリント選手権大会	鳥越 天宮	男子カヤックペア500m	1位
		松本 仁心		
		久保田 桂仙	男子カナディアンペア500m	3位
		田中 楓馬		
		美坂 優宙	男子カナディアンペア200m	3位
		福島 悠斗		
なぎなた部	第62回全日本学生なぎなた選手権大会	秋葉 笑里	演技競技	2位
		宮城 昭奈		

令和6年度 冠スポーツ奨学金給付企業（50音順）

企業等名	代表者名
医療法人秋津会徳田脳神経外科病院	理事長 徳田 元様
おおうら皮膚科	院長 寺崎祐太郎様
カイコー株式会社	代表取締役社長 宝地 雅浩様
株式会社鹿児島銀行	総務部長 竹元 正浩様
株式会社かのや寿自動車学校	代表取締役 水口 拓己様
株式会社きたやま	代表取締役 北山 勉様
小鹿酒造株式会社	代表取締役 日高 裕二様
有限会社寿スポーツ	代表取締役 二川 健治様
サツマガス工業株式会社	代表取締役 宮蘭 春人様
株式会社新生社印刷	代表取締役 岡崎 洋人様
医療法人青仁会池田病院	理事長 池田 大輔様
大海酒造株式会社	代表取締役 河野 直正様
税理士法人風呂井会計	代表社員 風呂井 敬様
株式会社丸屋	代表取締役社長 家迫 崇史様
公益財団法人ミズノスポーツ振興財団	会長 水野 明人様
株式会社ミズホ商会	代表取締役 田中 丈尋様

令和6年度冠スポーツ奨学金給付対象学生

所属団体	氏名
体操競技部	津村 涼太
	田邊 友唯
水泳部	久保田 梨琉

令和5年度 特別スポーツ奨学金

所属団体	氏名	大会名	種目	成績
サッカー部	吉田 真那斗	第19回アジア競技大会	サッカー競技	2位
体操競技部	津村 涼太	第19回アジア競技大会	男子団体総合	2位
			男子あん馬	2位
水泳部	久保田 梨琉	FISUワールドユニバーシティゲームズ	女子4×100mフリーリレー	3位

令和5年度 冠スポーツ奨学金（団体）

競技団体	大会名	種目	成績
体操競技部	第77回全日本学生体操競技選手権大会	男子団体総合	3位
サッカー部	特別国民体育大会 かごしま国体	サッカー競技 成年男子	2位
剣道部	第42回全日本女子学生剣道優勝大会	女子団体	2位
なぎなた部	第62回全日本学生なぎなた選手権大会	試合競技団体の部	2位

本学は、スポーツに特化した国立大学として、これまで長きに渡り教育及び研究の成果を通して、スポーツの振興に貢献してきました。また、今後も多くの期待が寄せられています。このようなタイミングで、本学の業務に携われることは大変名誉なことであり、不安以上に期待が膨らむ限りです。

学長のリーダーシップの下、全教職員の皆様方と連携を図りながら、大学の発展に尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

各中央競技団体（NF）に選手強化費を配分する業務に就いていたところです。それ以前もスポーツにかかる業務を経験してきたところであり、これまでの経験からスポーツが社会を創る重要な要素であると実感しています。

4月1日付で理事（組織・運営担当）・副学長・事務局長を拝命しました。前職は、独立行政法人日本スポーツ振興センターにおいて、「スポーツ振興くじ」の販売及び売り上げを財源とした「スポーツ振興くじ助成金」の配分を担当するとともに、別に国費をいただながら、日本オリムピック委員会（JOC）及び日本バラスポーツ協会（JPSA）を経由して、



新役員紹介
理事・副学長・事務局長
猪村 篤
あじ



まっすぐに。正直に。

大波酒造株式会社

〒893-0016
鹿児島県鹿屋市白崎町21番1号
電話(0994)44-2190 FAX(0994)40-0950

- 飲酒は20歳になってから。
- 飲酒は楽しく、適量を。
- 妊娠中、授乳期の飲酒はお控え下さい。
- 飲酒運転は法律で禁止されています。





Kubota 農業機械
株式会社
三ズホ商会

http://www.mizuho.kubota.ne.jp

〒893-0009
鹿児島県鹿屋市大手町12番1号
TEL (0994) 43-4178
FAX (0994) 44-9371

【営業所】
鹿屋・高山・志布志・岩川・
牧之原・野方・垂水・大根占

**汲取の御注文
浄化槽の管理**



水質安全に
全力投球

鹿屋市許可 株式会社 西日本浄化サービス
代表取締役 田中ふみ子
鹿屋市王子町4531-2
TEL (0994) 43-3425

あなたの町に、レモンガス

株式会社**レモンガス**かごしま
鹿屋支店

鹿屋市大浦町11423番地1
0994-42-2181



闘いの記録 (令和6年2月~3月)

【テニス部】

■令和5年度九州学生室内テニス選手権大会
(2/8~16 福岡/福岡大学、博多の森テニス競技場室内コートほか)
▽男子 シングルス 1位 太田 佳人
■2024年九州学生新進テニストーナメント
(3/6~16 福岡/今津運動公園、春日公園テニスコートほか)
▽女子 ダブルス 1位 杉村、瀬戸根

【水泳部】

■第44回九州カップ水泳競技大会
(2/3~4 福岡/福岡市立総合市民プール)
▽男子 50m自由形 1位 市村 優弥
100m自由形 1位 市村 優弥
200m平泳ぎ 1位 直江 篤樹

【柔道部】

■全日本学生柔道 Winter Challenge Tournament 2024
(2/17~18 奈良/天理大学旭之内第一体育館)
▽男子 60kg級 3位 金井 拓真

【ヨット部】

■2024年九州学生ヨット選手権大会 (新人戦)
(3/30~31 長崎/長崎サンセットマリナー)
スナイプ級 1位 四枝、生田

【ウインドサーフィン部】

■第2回ウイングフォイル全日本選手権大会
(2/2~4 沖縄/うるま市海中道路ロードパーク沖合)
▽男子 ウイングフォイルクラス 1位 穴見 賢太
■24IQFOIL INTERNATIONAL GAMES#1 & ALL JAPAN CHAMPIONSHIPS
(2/17~21 沖縄/宮古島市与那覇前浜)
▽男子 iQFOIL CLASS 4位 穴見 賢太

4月1日に水野講堂で
新入生・第3年次編入学



新入生オリエンテーションで
金久学長が講義を担当

生オリエンテーションが行われ、金久博昭学長が「鹿屋体育大学アスリート憲章」「大学スポーツの危機」「A.C.E. KANOYAプロジェクト」の3つの項目について講義しました。金久学長は始めに、大学スポーツにおいて薬物やハラスメント等の不祥事が相次いで発生している状況を受けて、室伏広治スポーツ庁長官からの「イ

ンテグリティ(誠実性・健全性・高潔性)を高め、いくことが必要不可欠」というメッセージを紹介し、スポーツの世界においてなぜコンプライアンスが求められるのかについて話をしました。また、2018年10月に制定された本学の8項目からなる「鹿屋体育大学アスリート憲章」について触れ、文武不岐(学

業とスポーツ・武道の実践が両立した日常)を模範とし、「主体的」「自律的」「挑戦的」に行動することが出来る学生アスリートとしての成長に期待していること、本学には「A.C.E. KANOYA」を目指す学生を支援するためのプロジェクトがあることを紹介しました。オリエンテーションの初日から学長の講義を聞ける貴重な機会とあって、真剣な眼差しで講義に耳を傾ける新入生の姿が印象的でした。

鹿屋体育大学ではこの「蒼天」や公式ウェブサイト、その他SNS等を通して広く皆様へ本学の活動情報をお知らせしております。ご覧になってのご意見、その他鹿屋体育大学の教育研究活動等へのご意見がございましたら、今後の運営・活動の参考にさせていただきますのでぜひお寄せください。ご意見・アンケートは以下二次元コードからweb入力できます。



鹿屋体育大学
へのご意見を
お寄せください。



3月20日に鹿屋体育大学水野講堂大ホールで、令和5年度鹿屋体育大学男女共同参画シンポジウム「スポーツで考える女性活躍促進」が開催されました。第一部では1984年のロサンゼルスオリンピック女子マラソン日本代表、現在はスポーツジャーナリストで大阪芸術大学教授の増田明美氏が「スポーツの力、女性の力」と題して講演を、第二部ではスポーツ文化ジャーナリストで本学経営協議会学外委員の



左から山田教授、増田氏、宮嶋氏

令和5年度鹿屋体育大学男女共同参画シンポジウム
「スポーツで考える女性活躍促進」を開催しました!

宮嶋泰子氏にもご登壇いただき、「スポーツのまちか」から女性活躍促進を考える」をテーマに、増田氏のほか本学の山田理恵スポーツ人文・応用社会科学系教授、男女共同参画室長が司会進行役で加わり、3人でディスカッションを繰り広げました。増田氏は登壇すると開口一番「やっと念願叶って鹿屋体育大学に来ることができました」と、2017年ロンドン選手権女子5000m代表の本学卒業生・楠莉奈さん(旧姓・鍋島)や2004年アテネオリンピック女子800m自由形金メダリスト柴田亜衣さんなど、活躍している卒業生について触れ、「卒業生の雰囲気がいい」とたたえました。オリピックに新しい種目が採用される時には都市型であること、男女平等であること、若者に支持されていることという3つの条件があり、男女混合型の種目も増えてきていることや、女性

がスポーツ界で活躍するための礎を築いた歴史上の人物にも触れ、女性アスリートを応援してくれる人が増えていけば、幸せな世界、元気な社会になっていくと話しました。また、「女性の指導者が増えれば女性ならではのきめ細かい視点から、女性の選手をビッグにできる。私も微力ながらこれからも頑張っていきたいと思います」と締めくくりました。2部のディスカッションでは、ロサンゼルスオリンピックに向かうときに空港でバツタリ会ったのが最初の出会いという増田氏と宮嶋氏のお二人が、息もぴったりの展開を見せました。宮嶋氏は具体的には女性の割合を数値で示して目標に近づけていくことや、「結婚式のケーキ入刀後も家庭と一緒に何かをやる、一緒に汗をかくという当たり前のことを子どもが自然に増やしていくことが性差による不利益を生まな

が、今後支部の活動にも適

3月2日、4年ぶりに鹿屋体育大学同窓会総会が対面と遠隔のハイブリッドで実施されました。会場となったのは、鹿屋から約2500km離れた北海道札幌市にある北海道教育大学サテライトキャンパスで、北海道支部との連携による開催となりました。



鹿屋体育大学同窓会総会・情報交換会を北海道札幌市で開催しました!

総会には北村尚浩同窓会長、隅野美砂輝同窓会総務長らをはじめ1期生から33期生までの25名が参加しました。令和4年度の事業報告ならびに決算報告、令和5年度予算計画、事業中間報告、令和6年度の事業計画などが協議されました。これまでコロナ禍によって、支部の活動も制限を余儀なくされていましたが、今後支部の活動にも適

宜同窓会が支援していくことが確認されました。総会に引き続いて行われた大学との情報交換会では、大学を代表して前田明理事・副学長が来札、鹿屋体育大学からは金久博昭学長、平川康弘理事・副学長、事務局長、金高宏文教育企画・評価室室長、梶か子キャリア形成支援センター長がWeb会議システムを利用してオンラインで出席しました。最初に前田理事・副学長から鹿屋体育大学の現状について「A.C.E. KANOYA」を目標とする「プロジェクト」を中心に説明があり、その後、金高教育企画・評価室室長から大学での学びの成果を、卒業生がどのように評価しているのかについて報告があり、最後は梶キャリア形成支援センター長から、今後の同窓会との連携についてアンケート結果が報告されました。同窓生からは「現役の学生に対して同窓会がどんな支援をすることが出来るか」など、今後の大学との連携について活発な議論が交わされ、盛況のうちに閉会となりました。

入学式が行われた4月5日の夜、新入生歓迎の「令和6年度第24回鹿屋体育大学新入生歓迎会」がリナシティかのやイベント広場で開催され、本学からは新入生を含む大学関係者262名が参加しました。この歓迎会は、地元商工会議所などをつくる地域づくり交流事業実行委員会(田中俊貴会長)が、新入生に地域住民との交流を通じて鹿屋の地に早く慣れ親しんでもらおうと、平成9年から



鹿屋市民の皆さまから
新入生を歓迎して
いただきました!

入学生が歓迎された4月5日の夜、新入生歓迎の「令和6年度第24回鹿屋体育大学新入生歓迎会」がリナシティかのやイベント広場で開催され、本学からは新入生を含む大学関係者262名が参加しました。この歓迎会は、地元商工会議所などをつくる地域づくり交流事業実行委員会(田中俊貴会長)が、新入生に地域住民との交流を通じて鹿屋の地に早く慣れ親しんでもらおうと、平成9年から

毎年開いてきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、今回5年ぶりの開催となりました。歓迎会では、はじめに田中俊貴会長が「鹿屋に来てくれてありがとう。鹿屋市民はみんな心から感謝しています。市民から愛されている鹿屋体育大学生であるという自覚を忘れず、日々頑張ってください。今日は鹿屋の美味しい食材を十分に味わってください」と挨拶しました。新入生を代表して松本卓輝さん(スポーツ総合課程)に人数分のかのやばら園の入場券が贈呈され、松本さんが「最高の環境を求めて鹿屋体育大学に入学しました。このような温かい歓迎を受けて、鹿屋に来てよかったと思います」とお礼の言葉を述べました。会場では鹿児島黒牛の焼肉やカンパチの握り寿司、地元食材で作ったおでん、さつま芋のねなどたくさん料理が振る舞われ、学生からは「新入生同士仲良くなれまして最高!」「イベントクイズを通して、鹿屋の町のことを知ることができてよかったです」など、喜びの声が聞かれました。新入生にとって、思い出に残る鹿屋での貴重な一日となったようです。

授業料の納付について

令和6年度前期分授業料は、下記のとおり銀行口座引落を行いますので、よろしく願いいたします。
1. 銀行口座引落日 5月27日(月)
※新入生も同日となります。
※前日までに引落口座へ預金してください。
2. 授業料(半期分): 267,900円
3. 問い合わせ先 鹿屋体育大学 経営戦略課会計室出納係
TEL 0994-46-4841

ありがとうございます

賛助会費は、奨学金、国際交流、学内研修等に利用させていただきます。心から感謝申し上げます。
《2024年度助成金》
公益財団法人 ミズノスポーツ振興財団 様(一〇〇万円)
《2024年度冠スポンサー奨学金》
医療法人 秋津会 様(三六万円)
おおうら皮膚科 様(三六万円)
カイコー(株) 様(三六万円)
(株)鹿児島銀行 様(三六万円)
(株)かのや自動車学校 様(六十万円)
(株)きたやま 様(三六万円)
(有)寿スポーツ サツマガス工業(株) 様(三六万円)
(株)新生社印刷 様(三六万円)
医療法人 青仁会 池田病院 様(三六万円)
(税)風呂井会計 様(三六万円)
(株)丸屋 様(三六万円)
(株)ミズホ商会 様(三六万円)